



た すけあう子
か かんがえる子
た くましい子
の 子



令和7年
5月30日
発行責任者
校長

5月 さつき・May

五月は後半に行事が重なりましたので2週続けて五月のいろいろな活動を掲載いたします。

3・5年生歯磨き教室

5月22日（木）に3年生は2校時に5年生は3校時に、歯科衛生士さん4名を迎え各クラスで歯磨き教室を行いました。3年生では、口の中はどうなっているかな①なぜ虫歯はできるの、歯の磨き方①の学習をしました。

下の写真は3年生、口の中はどうなっているかなの写真

(写真)

(写真)

5年生は口の中はどうなっているかな②、虫歯と歯肉炎について学ぼう、正しい歯の磨き方を知ろう②の学習をしました。

歯磨きの基本ではA～C

A歯ブラシの毛先を歯の面に垂直にあてる

B軽い力で小刻みに動かす

C順番を決めてみがくなどを学びました。

5年生の様子

(写真)

(写真)

子どものためのクラシックコンサート

東京アーティスト合奏団による子どものためのクラシックコンサートが28日（水）に行われました。

コンサートは2部構成で、1部は合奏と楽器のお話・世界の名曲でした。2部は歌のお姉さんによる、歌を中心としたコンサートでした。

1部では、ヨハン・シュトラウス作序曲「こうもり」をスタートに、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、フルート、オーボエ、ハープそれぞれの楽器の紹介とモンティ作チャルダッシュなどの演奏がありました。最後にどの楽器が好きかという団員の方の問いかけにハープが一番多く、4年生の代表がハープを引かせてもらい感想では、凄いい、かたい、きれいな音色がでた、また引いてみたいなどがでました。

2部では、子どもたちが知っている「ビリーブ」や「手のひらを太陽に」などを一緒に歌い、「あの青い空のように」では歌の一部分の手話を習い輪唱と手話で参加させてもらいました。歌の最後はドレミの歌で、先生方が前に出て（ドはドーナツのドなどドーナツのポーズをして）歌を盛り上げてくれました。児童たちは大喜びでした。その後合奏子どもたちもよく知っているネック作クシコスポストが演奏されました。アンコールがあり、アンコール曲は「さんぽ」で来月の歌と同じでプロの歌手のお手本が聞けました。

本物に出会える素晴らしい機会になりました。

*プロの演奏で写真NGだったのですみません。

1年生が地域に出かけイモの苗を植えました。

29日（木）1年生が地域の畑をお借りしてイモの苗を植えました。地域の方々に教わりながらしっかりと植えていました。

(写真)

(写真)

苦境にあっても

天を恨まず

2011年3月12日に行われるはずの気仙沼市立階上（はしがみ）中学校卒業式は、東日本大震災により実施できず、震災の10日後に行われました。

当時中学校3年生であった、卒業生代表の梶原裕太さんの答辞から紹介します。

本日は未曾有の大震災の傷も癒えないさなか、私たちのために卒業式を挙げていただき、ありがとうございます。

ちょうど10日前の3月12日。春を思わせる暖かな日でした。私たちは、そのキラキラ光る日差しの中を、希望に胸を膨らませ、通い慣れたこの学舎を、57名揃って巣立つはずでした。

前日の11日。一足早く渡された思い出のたくさん詰まったアルバムを開き、10数時間後の卒業式に思いを馳せた友もいたことでしょう。「東日本大震災」と名付けられる天変地異が起こるとも知らずに…。

階上中学校といえば「防災教育」といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちでした。しかし、自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。つらくて、悔しくてたまりません。

時計の針は14時46分を指したままです。でも時は確実に流れています。生かされた者として、顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。

命の重さを知るには大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。

私たちは今、それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。どこにいても、何をして

いようとも、この地で、仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。

後輩の皆さん、階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が、いかに貴重なものかを考え、いとおしんで過ごしてください。先生方、親身のご指導、ありがとうございました。先生方が、いかに私たちを思ってくださっていたか、今になってよく分かります。地域の皆さん、これまで様々なご支援をいただき、ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

お父さん、お母さん、家族の皆さん、これから私たちが歩いていく姿を見守っていてください。必ず、よき社会人になります。

私は、この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。

最後に、本当に、本当に、ありがとうございました。

震災により同級生のうち1名が亡くなり、2名はまだ行方不明の中での卒業式でした。

会場となった体育館には、避難をした方々もたくさんいるという状況でもあったのです。

卒業式の様子は、全国のニュースでも取り上げられ、まだ15歳の中学3年生が、涙をこらえながら読み上げるひたむきさに、多くの視聴者が涙を流したことと思います。もちろん私もそのうちの一人でした。

震災という悲しい出来事を、まだ受け入れることができていなかった時です。この答辞、そして彼の姿に感動し、勇気づけられ、生きるためのエネルギーを与えてもらったことは言うまでもありません。

この答辞は、東日本大震災から13年を迎えようとしている今でも、私たちにたくさんのことを教えてくれていると思います。彼は成人式を迎えた年のインタビューで、春には高専を卒業し、防災に役立つ地盤改良の仕事に就くという話をしていました。

現在、「必ず、よき社会人になります。」の言葉を実現し活躍をしていること、また、1日も早い被災地の完全な復興を、祈らずにはいられません。